

[課程—2]

審査の結果の要旨

氏名: 矢 澤 亜 季

本研究は、中華人民共和国において農村部から都市部への人口移動が、農村部に取り残される家族にとってどのような心理的影響を引き起こしているか評価することを目的としたものである。研究デザインは横断研究であり、福建省の農村部コミュニティに暮らす 797 名を対象に、2015 年 8 月に質問紙調査と濾紙血サンプルを収集した。データ分析にあたっては、Epstein-Barr ウイルス (EBV) 抗体価によって評価した心理ストレスと、出稼ぎのために世帯を離れている構成員の有無との関連を、急性の炎症状態にある対象者などを除いた 734 名を対象に線形混合モデルを使用して検討した。さらに、その心理ストレスの程度がソーシャルキャピタルの多寡によって修飾されているかどうかについてもあわせて検討した。主要な結果は以下のとおりである。

1. 研究参加者の世帯に、過去6ヶ月間継続してコミュニティの外で生活している(出稼ぎ・就学等)家族がいる場合、EBV 抗体価は、家族全員と一緒に生活をしている対象者のものより高い値であった(偏回帰係数 = 0.14; 95%信頼区間 = 0.01 - 0.27)。先行研究の中には家族の出稼ぎがもたらす利点(たとえば、送金など経済的な要因がもたらす健康への好影響)を報告するものもある。しかしながら、今回の対象地域においては取り残されることによる負の影響が強いという結果が得られた。
2. 残された家族に確認された心理ストレスは、ソーシャルキャピタルの存在によって緩和されなかった。本研究ではソーシャルキャピタルによる心理ストレスの修飾を、構造的ソーシャルキャピタル(結婚式や葬式への参加、他世帯の人と食事を一緒にとる頻度といった社会参加)と認知的ソーシャルキャピタル(コミュニティメンバーに対する信頼感・愛着・互酬性)の両側面について、それぞれ個人レベル、コミュニティレベルで評価した。しかしながら統計モデルにどのソーシャルキャピタルの変数を投入しても、出稼ぎ労働者に取り残されることによる心理ストレスの影響は変化せず、有意なままであった(偏回帰係数 = 0.13~0.14)。
3. 同時に、コミュニティレベルの構造的ソーシャルキャピタルが EBV 抗体価と負の関連を示していた(偏回帰係数 = -1.20; 95%信頼区間 = -2.40 - -0.00)。すなわち、人々の社会参加が盛んなコミュニティに居住することは、低い心理ストレスと関連する可能性が示唆された。

4. その一方で、個人レベルの構造的ソーシャルキャピタルは、EBV 抗体価と正の関連を示していた(偏回帰係数 = 0.21; 95%信頼区間 = 0.06 - 0.36)。すなわち、社会参加の頻度が高い個人の心理ストレスは高い傾向にあった。若い働き手が流出し、高齢化が進んでいる福建省農村部コミュニティにおいて、コミュニティ機能を維持するための活動やそれに伴う責任感などが、心理ストレスとなっている可能性が示唆された。

これまで都市部への移住者本人の健康を評価する先行研究は多く存在するものの、農村部コミュニティに取り残された家族の健康を評価した研究は数少なかった。本研究は、中国における都市部への人口移動が農村に残された家族の心理ストレスを増大させる可能性を示した。この点、本研究で示された知見は貴重である。さらに、研究参加者の言語能力や回答傾向に影響を受けないバイオマーカーを使用して心理ストレスを評価した点も、国際保健学という学問分野への貢献として評価できる。

以上の理由により本論文は学位の授与に値するものと考えられる。